

平成 21 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名：認知症高齢者 グループホーム つどい（たんぼぼの丘棟）

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370901001		
法人名	医療法人 一 秀 会		
事業所名	認知症高齢者グループホーム つどい たんぼぼの丘棟		
所在地	〒021-0002 岩手県一関市中里字石川瀬13-1		
自己評価作成日	平成 22年 01月 06日	評価結果市町村受理日	平成 22年 3月 25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www2.iwate-silverz.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0370901001&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成22年1月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎年、地区の夏祭りに参加させていただいたが、本年は、個人の特技を披露できるカラオケ大会を企画し、地域住民の方を招き、交流を図る機会を設けた。毎月、行事を取り入れながら、四季折々の季節感を味わうことの出来る企画を実施している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周辺はさまざまなショッピングセンターや体育館などがある一方、昔からの農家も多く、のんびりした環境にある。毎月請求書と一緒に詳細な支援経過記録を家族に送付しており、家族には、ホームでの様子がよく分かると好評を得ている。地域との関係も良好で、近隣環境のアドバイスや防災面の協力のほか、以前の同僚やサークル仲間が訪ねてきたり、地域住民も参加してのサマーフェスティバルでは利用者がカラオケステージで熱唱し歓声を浴びているなど、利用者の大きな楽しみにつながっている。また2つのユニットをつなぐウッドデッキは解放感にあふれ、天気の良い日には憩いの場となっている。日々ともに暮らしながら利用者理解を深め、利用者にとっての親や子ども、友人といった大事な人たちと同様の存在に近づければとの思いを抱きながら、より良いケアに向けて取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

[評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

事業所名 : 認知症高齢者 グループホーム つどい (たんぼぼの丘棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事務所やリビングに掲示し、職員全員が意識できるようにしている。	利用者が以前生活していた家庭の環境や暮らし方を大切にしながら、利用者にとって大切な様々な人(親、子)として、また自分の居場所としての存在に近づけるよう心の交流を深めるような理念として考えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域での夏祭りに参加するとともに、事業所開催のカラオケ大会に地域住民を招き、高校生がボランティアとして参加している。また、散歩中に挨拶や会話をしたり、野菜をいただいたりしている。	地域の運動会の打ち上げに参加する機会等で、住民からホームについてや認知症について話が出され、地域住民の理解が徐々に深まっている。夏祭りへの参加や日常の散歩の時に声をかけられたり、野菜をもらう等の交流がなされている。	近隣環境の安全面に関するアドバイスが得られたり、利用者の見守りについても意識してもらったりと、協力的な地域の関わりにより事業所は感謝している。今後も様々な面で関係を深めることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特別に行なっていることは現在ない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では近況報告を行なうとともに、地域の情報を得ている。そこでの意見を支援に役立てようとしている。	区長、老人クラブ会長、行政職員、利用者が参加し、利用者の状況や行事について報告し、意見交換をしている。また、参加者からは、色々な情報をもらい、サービスの向上に活かしている。	事業所ではもっと家族にも参加してもらえればとの思いがある。家族の忙しい事情に配慮しながらも、参加しやすい方法の工夫が今後望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者に連絡を取り、月に1回程度面会に来ていただくことがあり、情報交換を行なっている。	制度上の様々な問い合わせを電話等で行っているほか、生活保護を受けている利用者のワーカーとは毎月話す機会がある。また市からの介護相談員も時々訪れ、利用者の話を聞いている。	電話でのやり取りに加えて、担当者と気軽に行き来ができるなど、顔のみえるコミュニケーションを増やせるような関わり方も今後期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	学習会を実施し、職員の知識の向上に努めている。現在、身体拘束は行っていない。	研修会を行い、身体拘束は絶対にしてはいけないことを全員が認識している。玄関は日中鍵をかけず、利用者の外出にはブザーで対応し、職員がさりげなく付き添うなどケアしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学習会を実施し、職員の知識の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学習会を実施し、職員の知識の向上に努めている。また、ご家族から相談がある際は制度についての説明を行なっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	分かりやすい説明を心がけているとともに、不安や疑問点の有無の確認をしている。改定の際は文書を郵送し、質問に対し対応するようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置している。また、意見や要望がある際は、職員間で情報を共有し、検討しながら対応している。	利用者の状況を詳細に伝えることで家族からは安心感が得られている。家族からは料金面での要望などはあるが、地域との関わりの中でどう運営していくかという点での意見は薄い状況にある。	利用者側としての意見と共に、家族の協働意識は事業所運営に大きな役割をもつ。細やかな連絡により家族との結びつきは確立されているため、伝える内容の工夫等で、事業所や地域とパートナーとして関わる意識が促進することを期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の中で意見や要望をきくように心がけているが、不満等においては把握しきれていない可能性がある。	会議では、声かけの仕方や、ケアに関わる工夫等職員から意見や要望を聞く機会を設けているが、運営に関する提案等の意見の把握はこれからの課題としている。	職員個々が「やってみたい」と思ったことを意見として出し、まずはやってみるといった主体性を促す環境作りを今後期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得後は、本人の意向を重視し、可能な限りその資格をいかせるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に必要と判断した研修等には積極的に参加させている。法人や事業所でも研修や勉強会を実施しているほか、外部研修に参加した職員から、伝達講習を行なうことにより、知識の向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム定例会のほか、地域で催される活動があれば参加を勧めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	調査にて、生活状況・症状等把握するように努めている。本人からの聞き取りが難しい場合は、ご家族から伺うこともある。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	訪問や電話にて相談があった際には、出来るだけ時間をかけてゆっくりと話をきくように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	よく話を傾聴し、場合によっては他事業所を紹介したり、手続き等について説明をすることもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に暮らす中で、調理をはじめ、その他の場面でも利用者に教えていただくことは多い。また、声がけにも配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族面会時に状態を報告すると共に、必要に応じて相談の上、ケア方法を一緒に考えることがある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望があれば、電話をかける支援、はがきを出す等の支援を行なっている。	同級生や同じ職場の仲間、サークルの仲間が面会に訪れた際には、再度来てくれるようお願いしたり、入所する前に住んでいた自宅周辺へのドライブに出かけたりと馴染みの関係の継続に努めている。	利用者を訪ねて様々な人が訪問できる環境づくりや関係支援は、利用者の喜びにつながっており、その意義は大きい。今後も訪れる人たちの大事にしていてもらいたい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	表情・言動から関係や気分を察し、必要に応じて職員が間に入ったり、席をかえる等の支援を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族とお会いした際には、ご本人の様子を伺うなどして継続的な付き合いができるように心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で表情や言葉等から、気持ちを察して把握するように努めている。意思疎通が困難な方には、ご家族から情報を得るとともに、センター方式の心身の情報(私の姿と気持ちシート)を用いて、ケアプランに反映させている。	センター方式を取り入れたことで、本人の意向の把握がしやすくなった。同時に個性も見えやすくなったし、家族からの情報も得やすくなった。利用者の日々の行動や表情からも思いや意向の把握をするように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式に取り組み、ご家族にも一部記入をお願いしている。また、ご本人やご家族にもお話を伺いながら、情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活動作を観察するとともに、水分量、食事量、排泄、バイタルチェック表を作成して、現状把握に努めている。また、センター方式も活用している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族の意見をききながら、介護計画を作成している。また、毎月の会議にて職員全体で意見を出し合いながら、介護計画に反映させている。	センター方式で「できる事」「できない事」の把握や本人の意見である「仕事や趣味をもっとやりたい。」家族からは「健康であれば」等出された意見と、職員全員の意見をあわせて計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の介護記録に日々の様子やケアの実践結果を記録し、アセスメント兼モニタリングシートや、ケアチェック表を作成し、職員間で情報を共有しながら介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診については、職員対応にて行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族や病院をはじめ、地区行事の参加や、地域の宅配サービスを利用(牛乳配達・パン屋・弁当屋・薬局・新聞配達等)し、健康で楽しく生活が出来るような支援を心がけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力病院ではなく、利用者ひとりひとりの主治医のところに定期受診を行ない、通院後はご家族へ報告をしている。	かかりつけ医の受診となっている。法人の意向でもあり、利用者の状態を適切に伝えられることから、職員が同行している。家族が同行する場合は、家族にホームでの様子を伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	一部の利用者は、定期的に訪問看護を利用し、情報交換や相談をしている。また、必要に応じて隣接する同法人事業所の看護師より、助言や支援をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は必ず本人の様子を確認するようにしている。カンファレンスに参加することもある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の状態に変化があった際は、ご家族と話す機会を設け、意向を伺うようにしている。	これまで検討対象となるような利用者もなく、家族や本人からも具体的な要望は出されることはなかった。事業所単独では対応が困難なため、同法人で運営する他サービス(老人保健施設、有料ホーム等)との連携も視野に入れて検討していく予定である。	利用者の重度化は長期的な視野では想定されるため、本人の意向や家族と話し合う機会を徐々に得ていく必要はあると考えられる。そこでの要望に応じて、可能な対応を先々で検討していくことを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に一度は救命講習を企画し、出来るだけ多くの職員が受講できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練・避難経路図の確認とともに、避難訓練を実施している。推進会議では、地域の方々へ協力をお願いしている。	敷地内の同法人の事業所と共同で、年2回避難訓練を実施している。地域住民の多数の参加を得て、誘導や消火、バケツリレーも経験することができた。地域の消防団の参加もあり、協力体制はできている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会議にて一人ひとりについて全員で話し合いをする機会を持ち、その人にあった対応が出来るように心がけている。	利用者がティッシュペーパーを引き寄せるなどのサインを見逃さず、さりげない声掛けでトイレ誘導をしたり、入浴は同性介助を心がけるなど、利用者のプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症ということもあり、独自の世界観があるということを踏まえ、訴えがあった場合は話をきき、本人がどうしたいかを手伝えるようにする対応を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の天候や状況、希望に応じて買い物やウッドデッキに出たり、畑で野菜を収穫したりすることがある。自室にておもしろいものに過ごされている方もいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日、男性には髭剃り、女性利用者には整髪を心がけ、必要に応じて声かけや介助を行なっている。散髪は訪問美容室を利用しているが、それ以外にも希望の理髪店を利用している方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好みや季節に応じた食品をメニューに取り入れるように心がけている。下準備や片づけ等も、利用者は積極的に手伝ってくたさる。	秋は駐車場の芋煮会、冬は鍋や行事食、クリスマスには手作りのケーキなど季節感のある食事のメニューになっている。食事の下ごしらえや後片付けなど利用者が手伝い、食事が楽しくなるような工夫が見られる。	近隣住民が栽培した野菜を優先的に買い、「～さんの野菜です」と伝えながら食事をしている。食事の中で近所の親しみを感じることができる配慮であり、今後も継続してもらいたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の好みや食べる量、栄養バランスを考えながら調理をしている。定時の水分補給はもとより、一人ひとりの状態を察しながら水分補給を行なっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに歯磨きの声かけや支援を行なっている。義歯使用者には、義歯洗浄剤を活用して、殺菌消毒に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はトイレ誘導を行ない、夜間は本人の排尿間隔に応じて、パット交換等している。	誘導時間を短くしたり、利用者の行動や態度からトイレ誘導を行うなど、トイレでの排泄ができるように配慮し支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や水分摂取を心がけると共に、食事にも食物繊維が豊富な食材を取り入れるなど、工夫している。学習会も実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一番風呂や湯温の好みを把握し、一人ひとりに合った入浴を楽しんでいただけるようにしている。	入浴は毎日、夕方4時から6時の間で対応している。一週間に2～3回の入浴希望者が多い。又、2番風呂希望者や日中入りたい希望に対応するなど個別の要望に沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	好みにより、入居前に使用していた枕や布団を使用するなど、気持ちよく休んでいただけるように心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を保管し、職員が常に薬内容や副作用について確認できるように努めている。変化等については申し送りや連絡ノートにて職員が確認する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者が個々に応じた役割を行ない、また、趣味や得意なこと把握し(ゴミ捨てや家事など)行ない、気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候に応じて、散歩や買い物に出かける。	利用者の希望にそって、自宅周辺や厳美溪へのドライブに出かけたり、近隣のイオンショッピングセンターへ買い物に出かける機会を設けている。天気の良い日にはホームの周りの散歩や、散歩の途中で体操をしたりと、なるべく出かける支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が難しい方には、事務所にて預かり管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある際には、電話をかける支援、手紙を書くことも行なっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	七夕飾りやクリスマスなど季節に応じて意識して工夫している。	居間には、フラットの畳敷きがありコタツ、ソファー、テレビ、観葉植物などがある。居間から出入りのできるウッドデッキで天気の良い日にはお茶を飲んだり、歌を歌ったりしている。キッチンが居間と対面に作られ、調理の音や臭いを感じることができるなど居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや小テーブル、椅子を設置し、個々がくつろげる工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々に応じた居室の配置と一人ひとりが過ごしやすい居室作りに配慮している。ご自宅で使用していた家具を持参し使用されている方もいる。	居室には、テーブル・イス、趣味の本、テレビ、ラジカセ、アルバムなど利用者の馴染みのものがあり、居心地の良い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・脱衣所・浴室・リビングに手すりを設置し、安全確保と自立動作ができるよう配慮している。		